

◆ 授業案 4. 債務問題「死を招く債務」「債務危機のカリブ」

授業案作成: 陶山明彦 (高校教諭)

◆ねらい: 「債務問題」・「債務危機」と言われる問題が、70年代以降の先進工業国(北)と発展途上国(南)の間に発生したものであることを理解し、その解決への展望を探ります。

◆対象: 高校生～大学生

◆授業時間: 50分×3回
あるいは90分×2回

◆用意するもの
・電卓(人数分)
・「死を招く債務」または「債務危機のカリブ」
・絵合わせシート
・カード



「死を招く債務 IMF・世界銀行とニカラグア」
重債務国であるニカラグアの人びとを苦しめる構造調整。教育や医療、福祉、外資企業の参入などが人びとの生活にもたらした変化を追いました。



「債務危機のカリブ 財布に鎖をつけられて」
カリブ諸国を例に、債務返済のために人びとの生活がどのように圧迫されているのかを検証。債務の構造を分かりやすく説きます。

▶当授業案で使用する絵やカード、確認シートなどがWeb (www.parc-jp.org) よりダウンロードできます。

STEP1 「債務問題」ってなんだ? — 債務問題の概要を知る —

絵合わせをしてみよう(20分)

Act1 Q. この絵は何でしょう?

フィリピンの債務問題の漫画を3段階で提示し、その都度「何だろう?」「どう感じる?」などと発問します。



Act2 Q. 貸し手、借り手、そして実際にお金を返すのは誰?

問題を理解しよう(10～20分)

以下の点を押さえて講義をします。

- ・貸し手: 先進工業国の政府・銀行や、国際機関 (IMF・世界銀行)
- ・借り手: 発展途上国の政府

その後、「実際にお金を返すのは誰?」と発問し、考えてもらいます。

【答え】 発展途上国の人びと

Act3 Q. 年利9%で1万円借りたとき、10年後に返さなければいけない金額はいくら?

試算をしてみよう(5～10分)

数名に予想してもらった後、電卓で試算してもらいます。
答えは2万3673.6円。(元本1万円、利子1万3673.6円)
利子が借り額を上回ることを押さえ、これが80年代の発展途上国全体の債務状況であることを話します。
(実際の利率そのものは9%もあったわけではないのですが、為替などの影響で債務総額は毎年9%ずつ膨張し続けました)

Act4 Q. どの国が、いくら借りているのだろう? 「HIPC(s)」とは何だろう?

調べてこよう(宿題)

宿題として、それぞれ調べてきてもらいます。

▶HIPC(s)とは……重債務貧困国のこと。

※90分授業の場合は、STEP2の宿題とあわせて、STEP2の最後に出します。



STEP2 どうしてこんなふうになった? — 債務問題発生経緯・原因 —

調べてきたことを発表しよう(5分)

Act1

Q. どの国が、いくら位借りているのだろう? 「HIPC(s)」とは何だろう?

宿題として調べてきたことを発表してもらいます。

カードをならべてできごとを追ってみよう(15分)

Act2

Q. どんな流れで「債務問題」は起こった?

2～3人のグループに分かれ、70年代から今世紀にいたるまでの債務問題の形成と変化について示したカード(右)を順番を考えて並べてもらいます。

＜先進工業国 政府＞

どこかお金に困っている発展途上国はないかな。「援助」と言って金を貸してやればこっちにもいろいろ利益があるぞ。

＜発展途上国 政府＞

交通網も通信網も未整備。自然のまま森も川も手つかず。もっといろんな開発で経済力をつけたいのに……。先立つ予算が乏しいよ。

(カードの例)

考えてみよう(10分)

Act3

Q. どこが「債務問題」の原因?

出来上がったカードの並びをおおまかに確認し、なにが原因かを考えてもらいます。簡単な確認シートに、それぞれの言葉で書き込んでもらう方法もあります。

「死を招く債務」または「債務危機のカリブ」から、「構造調整」によって債務国の人びとの生活が圧迫されてる様子を見る(20分)

白紙の「例えば」カードに、どんなことが具体的に起こったかをビデオを見ながら書き込んでもらい、できた流れ図に追加してもらいます。

考えてこよう(宿題)

Act4

Q. 債権国はいったん債務の取立てを放棄すべき?

STEP3で、このテーマでディベートを行ないます。債務問題はこうしたら解決できるかという視点からディベートができるように、宿題としていろいろ調べ、考えてきてもらいます。調べる時間をとるため、STEP3までは最低1週間の時間を置くといよいでしょう。

STEP3 私たちも話し合おう

ディベートをしよう(35分)

Act1

Q. 債権国はいったん債務の取立てを放棄すべき?

5人対5人でディベートをしてもらいます。その他の参加者は審判役として議論の要点をメモしながら聞きます。

ディベートを振り返ろう(10～20分)

Act2

Q. ディベートの判定は? どんな感想を持った?

数名に判定と感想を発表してもらいます。発表しきれなかった他の人には、同じく判定と感想を書いてもらいます。論戦展開の感想にとどまるのではなく、「こうしたら解決できるか」という展望に踏み込ませます。

もっと話し合ってみよう(5～35分)

Act3

Q. さらに何を学ぶ必要がある? 何をもっと知りたい? 私たちは、この問題にどんなふうに関われるだろう?

3回の学習を通して、もっと学びたくなったことや知りたくなったことを参加者から引き出します。
また、自分たちがこの問題にどう関われるかについても問いかけます。

※90分授業のときは、債務帳消しキャンペーンの実例などを紹介したり、もう1STEP追加して、こうしたら削減できるかというプランをみんなでたてるのもよいでしょう。

